

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 5 月 22 日

所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	柴田翔平

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
宮崎県串間市幸島
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
生態学野外実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 4 月 23 日 ~ 平成 29 年 4 月 29 日 (7 日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター幸島観察所、鈴木崇文氏
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)
<p>4 月 24 日から 29 日までの 7 日間、下記の日程で生態野外実習に参加した。宮崎県串間市の幸島は、1952 年より野生ニホンザルへの餌付けが開始され、後にサルの文化的行動が発見されたことで知られている。現在でも週三回の麦撒きが行われており、サルを間近で観察するのに適した島である。本実習は、Michael Huffman 先生、田中洋之先生のご指導、鈴木崇文氏の協力により行われた。</p> <p>4/23 午後： 幸島観察所着、鈴木氏より幸島についてのレクチャー 4/24 午前： 予備観察 午後： 研究テーマ決定 4/25 : 幸島にてデータサンプリング 4/26 : 都井岬で野生馬観察 4/27 午前： 幸島にてデータサンプリング 午後： 発表準備 4/28 午前： 発表準備 午後： 各自研究内容発表 4/29 午前： 観察所の清掃 午後： 観察所発</p> <p>幸島での研究概要 ニホンザルは厳格な優劣関係を持つ専制的な種として知られており、順位の高い個体は食物への優先権を持つ。食物分布が集中する給餌集団では優位個体から劣位個体への攻撃行動が頻繁に表れる。幸島で観察した主群 50 頭のうちオトナオスは 3 頭おり、予備観察ではα-オスによる威嚇はほとんど見られなかったのに対して、β-オスによる威嚇は頻繁に見られた。そこでこれらのオスの攻撃性に注目し、「α-オスとβ-オスの攻撃性の違いが他個体に与える影響」とテーマを設定した。β-オスの方が攻撃行動の頻度が多く、周辺 2m 以内にいる個体数は少ないという予測を立て、一日一個体を追跡して各オスの攻撃行動の種類、頻度と対象個体、そして周囲にいる個体数のデータを取った。 4 月 25 日にα-オスを 135 分、27 日にβ-オスを 104 分それぞれ観察した。予備観察で立てた予測に反して、二日間で得たデータでは、威嚇等の攻撃行動は明らかにα-オスで多く見られた。また、周囲にいる個体数には、あまり大きな差は無かった。 実習を終えて考えると、予備観察でβ-オスによる威嚇が頻繁に見られたのは、それが人に向けられた「目立つ」行動であったからだと考えられた。観察で得られたデータでも、α-オスの威嚇のほとんどが他個体に向けられたものであったのに対して、β-オスによる威嚇は全てが人に向けられたものであった。我々が近くで観察をしなければ、β-オスは頻繁な威嚇をせず、異なる行動を見せていたかもしれない。餌付けされたサルは間近で簡単に観察することができるが、だからこそ観察する個体に自分が与える影響を考えなければならぬと感じた。</p> <p>実習全体を通して 波の影響で一日も船に乗ることはなかったが、潮が引くと島が陸続きになるため、幸いにも三度島に渡っ</p>

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

でサルの観察をすることができた。予備観察でテーマを決め、いざデータ収集を始めてみるとなかなか思うようにいかず自分の予測の甘さ、準備不足を痛感した。しかし、自らが持った疑問を解くためサルを観察する時間は、非常に充実したものであった。観察以外の時間も、都井岬で野生馬を観察したり、観察所周辺を歩き回って豊富な自然を感じたりと、心から楽しめるものであった。今回の実習で得た経験を自身の研究においても活かしたい。



α -オス



β -オス



攻撃行動



麦を洗うメス



アカウミガメの死骸



都井岬の野生馬

6. その他 (特記事項など)

本実習は PWS リーディング大学院プログラムの援助を受けて行われました。感謝申し上げます。